

長期留学体験報告書

【①国立彰化師範大学（台湾）】留学体験報告書（1）

留学時の 本学の所属・学年	中等教育教員養成課程 書道専攻 4年
留学期間	2019年9月6日～2020年4月12日 (出発：2019年9月5日 帰国：2020年4月12日)
留学の目的・動機	私は以前から、海外への留学に興味があり、言語や文化の異なる国で生活してみたいという思いがあった。今回の留学の目的は、語学力の向上、国際的な視野を広げることであった。中でも台湾を選んだのは、中国語圏であること、書道文化があり、現地で書法教育について学べるのが大きな理由である。また現地に福岡教育大学で知り合った台湾人の友人がいたことや、留学前に台湾への旅行経験があり、台湾の文化や雰囲気魅了されたことも理由の一つである。
留学の準備を始めた時期	2018年9月ごろ（出発の約1年前）。
情報収集方法	福岡教育大学に留学していた台湾人の学生 留学経験のある先輩
ビザ取得に要した時間	1か月程度
ビザ申請時の注意点	必要書類をそろえるのに時間がかかる。
奨学金受給の有無及び 奨学金名（金額）	奨学金受給 有 奨学金名： JASSO（月6万円）
求められた語学力 及び具体的な準備内容	本学の中国語4単位
授業クラスの状況 (人数、内容等)	大学の講義は、留学生なら自分の所属学科以外も自由にとることができる。英語で行われる講義もあるが、基本はすべて中国語で、中には実習を伴うものもある。中間と期末に試験があり、レベル的に難しい場合は、教授に話をすれば考慮してくれることもある。

	<p>言語センターの授業は、基礎・初級・中級に分かれていた。文法の授業以外にも、文化体験や会話の授業もある。彰化師範大学の協定留学生は、2つか3つまで無料で受講できる。</p>
履修科目について	<p>履修科目数：前期 6科目（内6科目単位修得） 後期 7科目（学期途中の留学の中止により取得単位無し）</p> <p>※大学での履修科目の他、大学に併設されている言語センターでの中国語の授業を受けることができる。（1コマ3時間、レベル別）</p> <p>前期 3コマ受講 後期 3コマ受講</p>
受講を勧める科目	<p>体育科目</p> <p>（理由：私は美術学科に所属し、主に芸術や書道の授業を受講していたが、前期も後期も『羽球』（バドミントン）の授業を受講した。言葉が分からなくてもスポーツなら先生の動作を見て何とか授業についていくことができる。また、自分の所属する学科以外の友達がたくさんできることも大きなメリット。）</p>
学年歴 (学期・試験・休暇等)	<p>前期 2019年9月6日～2020年1月11日 中間考査 11月4日～8日 期末考査 1月6日～10日</p> <p>冬休み 1月11日～</p> <p>後期 2020年3月1日～2020年7月3日 中間考査 4月27日～5月1日 期末考査 7月1日～3日</p> <p>※後期は新型コロナウイルスの影響で始まりが例年の2週間遅れ。</p> <p>夏休み 7月4日～</p>

留学先までの交通手段	<p>福岡空港～桃園空港（約2時間半） 桃園から彰化</p> <p>バス 3時間 新幹線 1時間（台北駅～台中駅） 電車 15分（台中駅～彰化駅）</p>
履修に関する留学先大学のサポート（チューター等）	チューター制度あり（同じ学科の学生）。
学習環境	<p>大学内図書館 平日 8:00～24:00、土日 8:30～20:30 ※寮には自習室など無かったため、よく図書館で勉強していた。</p>
居住環境	<p>学内には学生寮、食堂、プール、陸上トラック、体育館、ジム、バスケットコートなどの施設がある。学校の周辺にも飲食店やコンビニ、スーパー、ドリンクスタンドがあり、食事には困らない。いつでも安くおいしいタピオカドリンクが買える。</p> <p>電車で15分ほどで三越やSOGOなどのデパートがある台中に行くことができる。移動は、公共自転車、バス、電車をよく使った。ほとんどの学生がバイクを持っている為、後ろに乗せてもらうことも多かった。</p> <p>留学生寮は2人～4人部屋。トイレ、シャワールーム共用。ベットセットとして枕・ベットマットを入寮時に買ったが、ベットマットが薄すぎたため、個人的に別のマットを台中のイケアで購入した。冷蔵庫は各フロアに1つあるが、綺麗ではない。寮の中で料理は禁止されている。</p>
留学する際に持参した方がよいもの	<p>海外で使用できるカード。 自分の使用している参考書等。 大抵のものは台湾で調達できる（日本の製品も少し高いが何でも揃う）</p>
物価（食費、住居費等日本の物価と比較して）	<p>日本に比べて非常に安い。 ※ただし、日本の製品は高いと感じることが多かった。</p>

留学にかかる費用 (渡航費、生活費を含む)	総額 約80万円 (内訳) 寮費 1学期 約4万円 (学内の留学生寮) 家賃 1か月 約1万8千円 (学外に家を借りる場合) (2人でルームシェアをしたため、1人9千円程度) 食費 毎食 250円程度
治安状況	日本と変わらない
その他注意すべき事項	<p>台湾はバイクを使う人が非常に多く、車道はバイクだらけだった。公共自転車をよく利用したが、交通量も多く、車と大量のバイクの中を走るのはかなり危険を感じた。</p> <p>また、大学の周辺には野良犬も多い。私は落ちたごみを拾おうと車の陰に行ったら、犬が出てきてスカートに噛みちぎられたので注意したほうが良い。</p> <p>食べ物が安くておいしいので、気づかぬ間に太ってしまう。自己管理が必要。</p>
留 学 ・ 語 学 研 修 等 体 験 レ ポ ー ト (自 由 記 述)	
<p>7月までの予定だった台湾留学が4月に突然終わってしまった。3月末に留学中止の連絡が来たときは、心の底からまだ「台湾に居たい」、「もっと台湾で勉強したい」という思いでいっぱいだった。それほど台湾での留学生活は充実しており、私の海外への興味や関心を広げてくれた。</p> <p>留学生活は日々、新たな発見や驚きがあり、どの瞬間も本当に貴重な経験となった。今回は大きく学習面、生活面に分けて述べることとする。</p> <p>学習面では、大学で美術学科に所属し、現地の学生に混じって授業を受けた。はじめはほとんど中国語が聞き取れない、話せない状態だったが、日本語がわかる先生や友達などのおかげで内容を理解し、美術学科の大量の実技課題をどうにか乗り越えてきた。休日は現地の学生と一緒に街に遊びに行き、今でも毎週電話をするほど仲の良い友達もできた。後期は、授業の中で少しずつ先生の言うことがわかるようになってきたため、自分が興味のある授業を積極的に受講した。しかし、現地の大学生と同じように授業を理解するのは難しく、毎回、先生に次の授業内容を尋ね、準備できることは事前に準備をして授業に臨んだ。</p> <p>語学に関しては、現地で生活すれば自然と少しずつ分かるようになる。私は大学に併設されている言語センターの中国語の授業もとっていたので、文法など基礎から学ぶことができた。予習や復習に時間をかけ、学んだことは絶対に身につけようという気持ちで臨み、だんだんと現地の友達ともおしゃべりができるようになった。話せるようになると、日々の生活の楽しさ</p>	

も倍増し、ますます中国語を勉強することが好きになった。それと同時に、留学前にもっと勉強しておけばよかったと後悔した。貴重な留学の時間を有意義に使うためにも、ある程度の語学力はあった方が良く。また、現地ではどんなに中国語がわからなくても、真剣に聞こうとする態度を見せることを心掛けた。いつも中国語を教えてくれていた友人に「あなたは何でも一生懸命に楽しそうにするから私も楽しい気持ちになる」と言われたことがある。興味を持って主体的に学ぶということは周りの人の気持ちにも影響し、自分の成長の大きなチャンスになるということを感じた。

また、生活面では、友人と食事に行ったり、一人で街を歩いてみたりして積極的に中国語を聞き、話す機会を作った。私は留学中、どうしてもネイルがしたかったので自力でネイルサロンを探して毎月通った。どんなデザインにしたいか、自分の言葉で言えるよう事前に言いたいことを整理して緊張しながら伝えたことも良い思い出である。授業がない日には、彰化の街を散策してカフェを見つけ、課題や勉強をするという生活を送っていた。私は日本人と同室だったため、台湾にいるのに日本語を使う機会が多いことに不安を感じることもあった。しかし、お互いの友達を紹介し合って友達の輪が広がったり、一人ではなかなか挑戦しづらいことにも一歩踏みだせたりと、日本人がそばにいたからこそ経験できたことも少なくなかった。与えられた環境の中で自分がどのように行動するかが大事で、そのためにも自分が留学で何をしたいか、どうなりたいかという目標をしっかりと持っておくべきだと思う。彰化師範大学には、中国人をはじめ、ヨーロッパなどからの留学生もおり、学期中に何度か大学の国際課が主催する留学生のイベントがある。そのようなイベントや普段の授業などで仲が深まり、様々な国籍の友人ができた。国によって様々な考え方の人がおり、自身の海外への興味・関心がさらに高まるきっかけとなった。また、留学生同士のコミュニケーションは基本英語なので、どの国に留学するにしても英語は勉強していた方が良くと思う。

今回の留学は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、予定していたにも関わらず実現できなかったことが沢山ある。悔しい気持ちもあるが、この留学で語学力の向上と異文化に触れる面白さを知り、またいつか絶対に海外で生活したいという目標もできた。4年次での留学により、卒業が1年遅れてしまうことに不安もあったが、この留学経験は何ものにも代えがたい私の学生生活の最大の宝となった。

【①国立彰化師範大学（台湾）】留学体験報告書（2）

留学時の 本学の所属・学年	初等教育教員養成課程 3年
留学期間	2019年9月6日～2020年4月12日
留学の目的・動機	①語学力向上：大学1年の選択科目である外国語において、中国語を選択し、その後も応用の授業を受講する中で、もっと語学力を向上させたいと感じたから。 ②台湾の教育について学ぶ：特に特別支援教育、英語教育、LGBTQ+等他者理解に関する教育に興味があったから。
留学の準備を始めた時期	入学前から留学希望。大学1年から連携推進課主催のイベントに参加したり、留学に関する資料を頂いて、履修計画や実習担当への問い合わせを行った。
情報収集方法	留学体験報告書、前年度交換生から話を聞く、インターネットやSNS
ビザ取得に要した時間	約2か月（必要書類大量有。健康診断の他、大学から発行してもらう書類も英語なので時間がかかる。準備は早めに！！）
ビザ申請時の注意点	パスポートの残存期限を確認。私は足りなくて一時帰国の時に新しいものを発行しましたが、ちょっと面倒くさかったです。
奨学金受給の有無及び 奨学金名（金額）	奨学金受給 有 奨学金名：独立行政法人日本学生支援機構 海外留学支援制度（協定留学）（6万円）
求められた語学力 及び具体的な準備内容	中国語の単位4単位以上、HSK等検定の受験（留学前3級取得）、大学にて応用クラスの受講

授業クラスの状況 (人数、内容等)	言語センター（4人～約20人、レベル別のクラス分け。基本すべて中国語で、テキストに沿った授業が多い。） 大学（中国語又は英語。人数は授業による。）
履修科目について	履修科目数：前期 言語センター4科目（内4科目単位修得） 大学 5科目（内4科目単位修得） 後期 言語センター3科目（内科目単位修得） 大学 9科目（内科目単位修得）
受講を勧める科目	体育（理由：中国語が分からなくても何とかなるし、得意なスポーツだと楽しんで参加できる。これですまは友達を増やしました。特に瑜珈（ヨガ）の先生は優しいし、留学生に理解があるからおすすめ。家に招待してくださいました。） 日本語（理由：日本語は母語だから、中国語の説明に集中することができる。日本人だから話しかけられやすい。）
学年歴 (学期・試験・休暇等)	前期（2019年9月上旬～12月中旬） 後期（2020年3月上旬～6月下旬） 試験（授業によって中間考査有。12月上旬） 冬休み（1月上旬～2月）※大学は12月で終わり。言語センターが終わらないので、冬休みのスタートが遅い。
留学先までの交通手段	福岡空港～桃園空港 所要時間：約3時間（飛行機） 桃園空港～高鐵桃園駅 所要時間：約10分（徒歩） 高鐵桃園駅～高鐵台中駅 所要時間：約40分（電車） 新烏日駅～彰化駅 所要時間：約30分 彰化駅～彰化師範大学 所要時間：約20分（自転車） ※バス利用の場合台北～大学まで約3時間
履修に関する留学先大学のサポート（チューター等）	チューターがついて履修についてサポートしてくれる、国際課で留学生の対応をしている。（イベントも開催してくれる）
学習環境	インターネット有 図書館は遅くまで開いており、自習室もある。
居住環境	留学生寮（大学内）：2～4人部屋 学生アパート（1人部屋）：大学が準備してくれる

留学する際に持参した方がよいもの	常備薬、SIMフリーのスマホ、ノートパソコン（寮でWi-Fiを使う場合はパソコンにつなぐと便利。パワポやレポートを書くのにも使う。）冬は寒いので上着があると良い。
物価（食費、住居費等日本の物価と比較して）	全体的に日本より安い。が、日本製品はとても高い！
留学にかかる費用 （渡航費、生活費を含む）	総額 約90万円 （旅行費用などもすべて含む。）
治安状況	危ないと思ったことはほぼない。夜も遅くまで開いているお店があり、そこで食べ物を買っていました。 ※野良犬がとても多いのでそこだけ注意。基本何もしてきませんが友達が追いかけて服を噛みちぎられました。
その他注意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の治療は保険適用外なので、留学前に余裕をもって診察を受けること。虫歯があると治療に時間がかかりますし、私は親知らずまで抜きました。 ・荷物はなるべく最小限に。特に大学は日本ほどオシャレに気を使わないので、服は少ないかつ捨てて帰ってもいいものを持っていくといいです。 ・現地でのお金のおろし方を確認しておくこと。カードの種類によってはキャッシングサービスが利用できません。
留 学 ・ 語 学 研 修 等 体 験 レ ポ ー ト （ 自 由 記 述 ）	
① 留学によって身についた能力	
<p>何事にもチャレンジする力</p> <p>元々好奇心が強めで、色々なことに挑戦してみたいくなる性格でしたが、留学を通してその力がもっと強くなったと思います。</p> <p>自分的にチャレンジできたなあと思うことを書き出してみると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>トビタテ！留学JAPANへの応募</u> （応募書類の作成や、2次試験で東京に行き、面接官の前で自分の留学について話すことで、自分が留学を通して何をしたいか、それをどう活かして 	

いきたいかを留学前に改めて整理することができました。)

・ 専攻外の学部に所属

(日本では初等教育を専攻していましたが、台湾では特別支援教育を専攻しました。授業を受けるだけでなく、現地の教育実習にも参加する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で後期は途中で帰国することになり、中途半端に終わってしまったのが残念です。)

・ 色々な場所に行った

(休みの日に出かけることが増えました。また、一人で行動することも多くなり、馴染みのお店ができたたりもしました。美容院やネイルに行ったのも思い出です。旅行は台北、台中、台東、台南、高雄、阿里山などたくさんの場所に行きました。いろいろな場所に連れて行ってくれたり、家に招待してくれた台湾人の友人たちと、留学生の仲間、日本人の友人に感謝です。)

・ SNSでの発信

(英語圏に比べて、台湾留学に関する情報は少ないので、少しでも現地での様子を伝えられるようにSNSでの情報発信を行いました。より台湾留学のリアルが伝わると思うので、興味がある方はぜひのぞいてみてください！

Instagram : @ningning9.9)

② 留学のどういう部分が教員になる上で役に立ったか

学生のうちに文化の違う環境に身を置く経験ができたことは、物事を多角的に見ることに繋がってよかったと思います。留学ができなくても、様々な文化や考え方に触れる機会を積極的に取り入れ、様々なものの見方や考え方を自分の中に取り入れられると、児童生徒の理解や独創的な授業の提案などにも繋がるのではないかと思います。

また、日本以外の教育現場を知ることができたのも大きな経験です。台湾の教育はもちろん、彰化師範大学にくる協定留学生は、各国の教員志望の学生も多いので、様々な国の教育のことを知ることができます。日本では当たり前のことも、海外では違ったりするので、「なぜこれを行っているのか。」その指導や政策の意味を考えるようになりました。

特に、台湾のギフティッド教育に関する学びは多く、卒業論文の執筆をこのテーマで行いました。日本との比較を通して自分が今後教員として実践していきたいことを再確認できました。